

名古屋女子大学 学報

vol. 116

September

2024.09

NAGOYA WOMEN'S UNIVERSITY
COLLEGE OF NAGOYA WOMEN'S UNIVERSITY

特集

令和7年4月、共学化
名古屋女子大学は、名古屋葵大学へ

本学正門前に設置の看板



学園訓「親切」 越原春子 筆

令和7年4月、共学化 名古屋女子大学は、 名古屋葵大学へ

学校法人越原学園 名古屋女子大学は、学園創立110年を迎える令和7(2025)年、大学名称を「名古屋葵大学」へ変更し、共学とすることといたしました。

本学は創立以来一貫して女子教育を担ってきましたが、今後は男女がともに協働して個性と能力を發揮し、社会で活躍し続ける共創社会の一員の育成へと歩みを進めます。そこで今号では、本学の踏み出す新たな一歩について、ご報告いたします。



越原もゆる学長

学長メッセージ

原点に立ち返り、その精神を胸に刻む思いを込めています。また、共学化のキーワードは、「共創社会、葵で凛々しく」と掲げており、「名古屋葵大学」では、その名に相応しく、太陽に向かって真っ直ぐ伸びて、色とりどりの花を咲かせる葵のように凛々しく、力強さと美しさを兼ね備え、性別に関わりなく個性と能力を十分に發揮して、共創社会の中で活躍できる人材の育成を目指します。共学化に伴い、家政学部は「生活環境学部」に名称変更し、また、短期大学部は募集を停止しますが、短期大学部での学びは、本学においてより充実させた内容で修得できるものが多く、本学への学びへ繋がる決断であると発展的に捉えています。短期大学部の入学生を迎えるのは、令和六(二〇二四)年度が最後となりましたが、全ての在学生在が卒業するまで、これまでと同様、大切に育成して参ります。

「名古屋葵大学」学長には、世界初のアルツハイマー病治療薬「アリセプト」を開発した杉本八郎薬学博士の就任が決定しました。現在、施設設備面も含め、共学化に向けて教育内容の充実を図っていますが、本学は、この先、これまで以上に産学官連携に注力していきます。杉本博士は、教育・研究を通じた産学官連携による成果を地域社会へ還元することを目的に開設した本学ヘルスケア研究所の所長も務めており、来る超高齢社会の中で、栄養、看護、リハビリテーションの分野をはじめ、生活環境や教育の分野も関連付けて、多世代に亘って意義があり、より実効性の高い産学官連携に分野を越えて学部横断的に取り組むことで、地域社会の振興と発展に寄与したいと考えています。

本学園は、然るべき未来を見据えながら、これからも、学園訓「親切」と建学の精神に基づき、教職員が力を合わせ、職業を通して社会に貢献し、活躍し続ける人材の育成に尽力して参ります。

本学園は、大正四(一九二五)年、創立者越原和、越原春子により、学園訓を「親切」と定めて、はじめは、名古屋女子学校として設立されました。以来、昭和二十五(一九五〇)年に名古屋女学院短期大学(現在の名古屋女子大学短期大学部)を、昭和三十九(一九六四)年に名古屋女子大学を開設し、一貫して女子教育を担って参りました。現在までに、五万六千人を超える多くの卒業生を社会へ輩出し、衣・食・住、教育、社会福祉、医療をはじめとする多方面で活躍しています。今般、女性の社会進出は当然のものとなり、男女共同参画が推進されています。また、本学園の建学の精神は、「学園の信条である『親切』を根幹として、個々の人格を陶冶し、かつ高い教養を身に纏った、よき家庭人であり力強い職能人としての女性を育成する」ですが、この、「高い教養を身に纏った、よき家庭人であり力強い職能人」という考えは、女性だけでなく、男性にも求められるようになりました。この社会現状を踏まえて、このたび本学園は、令和七(二〇二五)年度を迎える学園創立二一〇周年の節目の年に、大学を共学とし、校名を「名古屋葵大学」へ変更することといたしました。

校名の「葵(あおい)」の文字には、本学園創設の地が現在の名古屋市東区葵町であったことから、共学として新たな一歩を踏み出すにあたり、今一度、建学の

令和7年4月からの変更点

1 新大学名称「名古屋葵大学」

学校法人越原学園名古屋女子大学は、令和7年4月から大学名称を「名古屋葵大学」に変更し、共学とすることといたしました。男女共同参画が進み、性別にかかわらず、個性と能力を十分に発揮できる社会現状を踏まえての決断です。「葵」（あおい）の文字には、学園創立の地が名古屋市東区葵町であったことから、共学校として新たな一歩を踏み出すにあたり、今一度、建学の原点に立ち返るという意味を込めています。また、葵は太陽に向かってまっすぐ伸びる茎を持ち、上へ上へと花をつける植物であるため、「こ」を新たな出発点とし、今後の大学の更なる発展を願う気持ちも表しています。

2 共学化キーコンセプト

「共創社会、葵で凛々しく」

共創社会(Co-Creation Society)とは、多様な組織やグループ、個人が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、暮らしや地域をともに創っていく社会を指しています。時代はこれまでの競争型の社会から、共に目標に向かって進み、未来を創っていく共創社会へと変化を辿っています。その変化に順応するためには、性別を超えて様々な価値観の人が共に学び、議論を深めることが必要です。本学は、創立以来一貫して女子教育を担ってきましたが、今後は男女に関わらず個性と能力を発揮し、社会で活躍し続ける共創社会の一員の育成へと歩みを進めて参ります。

3 学部名称変更「生活環境学部」

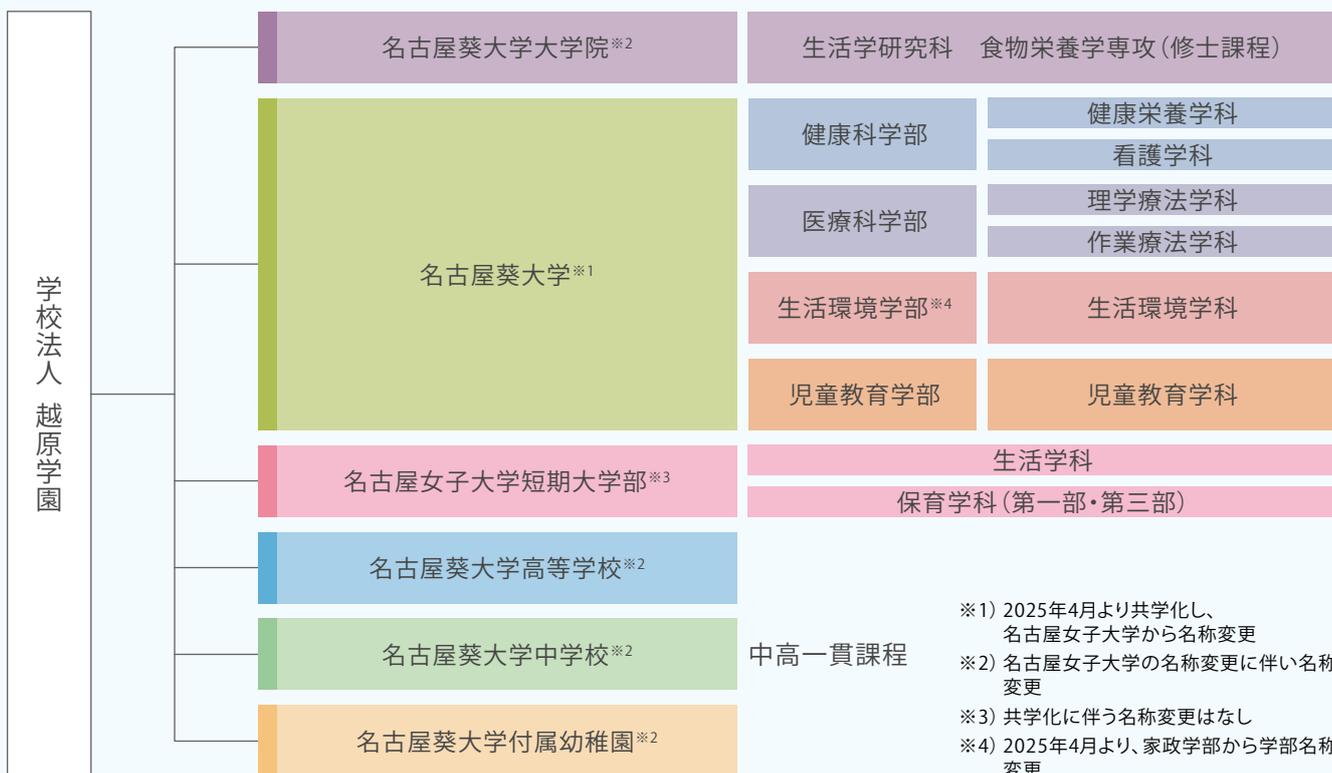
本学では、時代の変化とともに、社会情勢を踏まえて学部編成の見直しを行っております。現在の学部・学科編成の状況、家学の対象とする領域の拡大や教育の実態等を踏まえ、大学が共学化される令和7年4月を機に学部名称を家政学部から「生活環境学部」に変更いたします。

4 短期大学部学生募集停止

名古屋女子大学短期大学部は、昭和25年4月に名古屋女学院短期大学として開学しました。これまで建学の精神に基づき有為な人材の育成に努め、3万3千人を超える卒業生を社会に輩出しております。しかしながら、近年の社会状況の変化により、全国的に短期大学志願者は減少しており、本法人において慎重に検討を重ねた結果、令和7年度以降の学生募集を停止することを決定いたしました。これまで支えてくださった皆様方に厚く御礼を申し上げますとともに、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

刻々と状況が変化していく現代の社会においては、伝統を重んじつつ、変化に柔軟に対応していく姿勢が求められます。本学園はこれからも、建学の精神である「学園の信条である『親切』を根幹として、個々の人格を陶冶し、かつ高い教養を身に纏った、よき家庭人であり力強い職能人を育成する」に基づき、職業を通して社会に貢献し、活躍し続ける人材の育成を進めて参ります。

越原学園 組織概要



※1) 2025年4月より共学化し、名古屋女子大学から名称変更
 ※2) 名古屋女子大学の名称変更に伴い名称変更
 ※3) 共学化に伴う名称変更はなし
 ※4) 2025年4月より、家政学部から学部名称変更

共学化記念対談

越原もゆる 学園長

浅井桂子 前春光会会長



名古屋女子大学同窓会・春光会平成30年度～令和5年度会長。名古屋女子大学家政学部卒業。令和6年度より春光会愛知県西支部支部長。

学校法人越原学園理事長・学園長。名古屋女子大学・名古屋女子大学短期大学部学長。春光会名誉顧問。名古屋女子大学文学部卒業後、東京農業大学大学院農学研究科博士後期課程修了。

コロナ禍の経験から感じた人と会うことの大切さ

越原 浅井前会長には、在任中春光会の発展と、春光会の活動を通して本学の発展にご尽力いただき感謝しております。本学は学園創立110周年の節目である令和7年度に、男女共同参画が進む共創社会の中、本学の教育を男性にも門戸を開き、共学化する決断をいたしました。本日はその記念対談としてお越しいただきました。よろしくお願いたします。

浅井 よろしくお願いたします。

越原 はじめに、浅井前会長の在学時の思い出を伺いたいと思います。

浅井 私は当時家政学部にあった児童学科を卒業しました。子どもの頃から先生になりたいと思っていたので、この大学で学ばせていただき光栄です。私達は児童学科の1回生で、評判が良かったですよ。名古屋女子大学はよくやっていると。皆頑張っていたと思います。卒業生には長年教職をされている方も多くて、仲間がたくさんいたことを改めて感じました。私もおかげで教師になることができ、自分の人生の輪が広がりました。感謝の気持ちでいっぱいです。

越原 本学の建学の精神を実践している大先輩ですね。春光会には、学園訓「親切」、建学の精神を実践している先輩が多くいらっしゃいます。ぜひ若い卒業生や在学生にも春光会室に遊びにきてほしいと思います。

浅井 そうですね。私は素敵な先輩たちと仲良くお話しさせていただけることが嬉しくて仕方ありませんでした。私は10年ほど前に、現会長の早川さんにお電話をい

ただいて、その時から春光会の活動に参加させていただくようになりました。

越原 会長在任中、印象深かったことを教えてください。

浅井 やはり新型コロナウイルス感染症が一番に思い浮かびます。特に感染が流行した3年間は人と会うことが制限され、春光会でも総会を開いても皆さんに声がかからず、役員のみで開催していました。流行も4年目になると、ようやく今まで通りホテルで開催できるようになりました。みんな嬉しそうに集まって、實際顔を見ながらお話しできて、心から嬉しく、印象に残っています。

越原 ホームカミングデーも4年ぶりに開催できましたね。会長挨拶のときに涙ぐまれていたことが印象深いです。

浅井 私、涙もろいんですよ。やはり人と実際に会うことは大切だと思いました。



「共創社会、葵で凛々しく」
名古屋葵大学に期待すること

越原 本学は令和7年度、名古屋葵大学に名称変更し、男女共学化します。「葵」は本学園創設の地が東区葵町にあったことから、今後も建学の精神を変わらず貫いていくという思いで名付けました。今後の大学への思いや、期待されることは何でしょうか。

浅井 学校がより良く変わろうとして改革されるといふことですから、応援していきたいと思っています。多様化の時代です、男子学生が私達の学園を歩いているのも、新鮮で良いなと思います。

越原 建学の精神である「高い教養を身に纏った、よき家庭人であり力強い職能人」という考え方は男性にも当てはまりますので、本学での学びを男女ともに将来実践して欲しいと思います。「葵」には、創設の地の名前であるとともに、葵の花のように空に向かって真っすぐ伸びていくという意味も込めています。



浅井 色々な色の花が咲く花ですし、素敵ですね。

越原 「共創社会、葵で凛々しく」を共学化のキーワードとしました。個性を發揮できるように、男女ともに養成していきます。またスクールカラーも、今までの若草色から青色に変更します。学園歌「月花の」についても、来年度から歌詞を一部変更します。新しい歌詞も、作詞者であり、二代目学園長であった越原公明先生の詞から言葉を選びました。

浅井 素敵ですね。「月花の」が残るのも良かったです。大学に期待することですが、最近一般的には教養科目等を軽視する傾向があるように感じます。本学の建学の精神にもありますように、今後も学生達が高い教養を身に付けられる時間を大事にできる大学であってほしいです。私達も在学中、色々な友人ができて、自分自身も成長することができました。そのような場を、今後も大学が学生達に与えてあげてほしいと思います。

越原 知識や技能だけではなく、人とのコミュニケーションや、教養科目もそうですね。コロナ禍には本学も一時期、一斉休校をしましたが、感染対策を講じながら原則対面授業を続けてきました。やはり学生も実際に大学に来て、人と会って繋がりを持つことで成長すると思います。続きまして、今後の春光会に何を期待されますか。

浅井 新会長の早川会長に期待しています。実行力のある会長ですので、より良い会になつていくと思います。若い卒業生、男性の卒業生にもぜひ春光会に入っていたら、お力添えいただきたいと思っています。私は会長を卒業して、愛知県西支部の支部長を頼



まれていますので、これからもお力になればと思います。

越原 最後に、卒業生、在学生、保護者へのメッセージをお願いします。

浅井 大学のことをもつと知っていただきたいですね。色々なことを聞いていただくと嬉しいですね。私もはじめは年の離れた先輩にはなかなか声をかけられませんでしたけれど、やはり同窓生だと分かると、応援したいと思いますよね。春光会ではこれからもそういった卒業生の繋がり、ネットワークを作っていくことができたいと思います。

越原 卒業生が活躍してこそ、学園の発展があると思います。お手本となる春光会の皆さんに、今後も卒業生の絆を繋いでいつてもらいたいと思います。在任中は本当にお世話になりました。今後も春光会におかれましては、本学へのご支援、ご協力をお願いいたします。

浅井 もちろんです。私は女性会にも入っているのですが、共学化や校名変更に関係なく皆さんとも興味を持って関わっています。

越原 どうして名古屋葵大学なの？という方もいると思います。ホームページ等に掲載はしていますが、より広く伝えていきたいですね。

浅井 愛知県西支部は一度休部をしていましたが、これから大学が大きく変わっていくことで復活することになりました。これから変わっていく大学と卒業生の窓口になればと思います。元気な先輩たちもいっぱいいらっしゃいますから、大丈夫です。

越原 春光会の役員の方にはお元気な方が多いですね。本学では超高齢社会の中で、今後、認知症予防にも力を入れていきます。講演会等も行いますので、春光会の皆さんにもぜひ積極的に参加していただきたいと思っています。本日はありがとうございました。

浅井 ありがとうございます。先生もまたぜひ春光会室にいらしてください。



令和6年度 ^{おっばら}越原学舎研修

学長講義「建学のこころ」

令和6年度越原(おっばら)学舎研修が4月から6月にかけて、学科ごとに2泊3日で行われました。研修は創立者越原春子先生生誕の地、岐阜県加茂郡東白川村越原にある越原学舎で新入学生全員を対象に行われます。創立者の子孫にあたる越原もゆる学長による講義「建学のこころ」では、学生は創立者の郷家で囲炉裏を囲みながら当時の実物資料を手にし、実感を持って建学の精神を学んでいました。

令和6年度 名古屋女子大学・名古屋女子大学短期大学部入学式



令和6年度入学式での学長式辞



児童教育学科4年生による学園歌(校歌)『月花の』斉唱

令和6年度入学式は、4月4日に本学園体育館にて、大学・短期大学部合同で挙行されました。式典では、越原もゆる学長から、「学園訓『親切』」に基づき掲げられた本学の建学の精神は、高い教養を身に纏った、良き家庭人であり力強い職能人を育成することです。学園訓『親切』の本質にある思いやりの心は、感謝の気持ちを持つことに始まります。勉学することができる環境に感謝して学業を修め、本学での学びを将来、職業を通して社会のため役に立てることで、感謝の気持ちを社会に還元していくことが学園訓『親切』の本質です。」との式辞が述べられました。式典終了後、コロナ禍を経て5年ぶりに、児童教育学科4年生有志による学園歌(校歌)『月花の』斉唱が行われました。新入学生は在学生の澄んだ歌声に導かれ、目指す未来に向け力強い一歩を踏み出しました。

創立者越原春子先生を偲ぶ
銘板の設置

中学校高等学校の東館中庭に設置された銘板

学園創立110周年となる令和7年を控え、名古屋女子大学中学校高等学校の東館中庭に、創立者越原春子先生を偲ぶ銘板を設置しました。この場所にはかつて、春子先生が晩年をお過ごしになられた校宅がありました。当時校宅の南側には調理教室があり、いつも生徒達の活気ある声が聞こえていたそうです。東館は中学校高等学校の南門を入ってすぐ右側にありますので、ぜひお立ち寄りください。

奨学金寄付に対する
感謝状贈呈式

感謝状贈呈式の様子。鬼頭様(左)と越原理事長(右)

本学の奨学金制度にご賛同をいただき、鬼頭順子様より100万円のご寄付を賜りました。鬼頭様は、本学短期大学部の前身である名古屋女学院短期大学を卒業されました。この度のご寄付に対し、4月に感謝状贈呈式を執り行い、鬼頭様からは学園及び学生達への激励のお言葉を頂きました。頂いたご寄付は大切に使用させていただきます。今後とも、学園へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

出席管理システムの導入



出席認証の様子

令和5年度後期より新たに、指紋認証機能を利用した出席管理システムを導入しました。学生証に個人の指紋を登録し、全講義室に設置された認証カードリーダーに近づけることで出席認証を行います。指紋登録により、本人のみが認証できる仕組みとなっています。

システム導入により、従来の出席確認に要する時間を解消でき、授業の質向上に資することができました。

「瑞穂クリニックモール」オープン



瑞穂クリニックモール外観(南9号館東隣)

南 9号館の東隣に、医療の提供による地域貢献を目的として、本法人が運営する「瑞穂クリニックモール」がオープンしました。本施設は、クリニックモールと住宅型有料老人ホームからなる複合施設です。老人ホームには、比較的活動性の高い方々の入居を想定し、トレーニングルームを設置しています。南9号館は理学療法士・作業療法士を養成する医療科学部の校舎であり、今後、同学部との連携も検討しています。

ヘルスケア研究所定期講演会の開催



杉本八郎所長による講演の様子



多くの質問が挙がりました

4 月20日、昨年度本学に開設したヘルスケア研究所の定期講演会を開催しました。3月に続く2回目の開催で、認知症研究の第一人者である杉本八郎所長に、「薬と認知症」をテーマにお話をいただきました。複数の種類がある認知症治療薬の効果や使い分け方に加え、杉本所長が開発された世界初のアルツハイマー病治療薬「アリセプト」の創薬時のエピソードも伺いました。医薬品開発に要する期間の長さ成功率の低さについてのお話では、参加者から驚きの声がかれました。治療薬や認知症予防に関する参加者の関心は高く、講演会終了後には質問や相談が多く寄せられました。今年度は11月と2月にも「運動と認知症」、「社会との関わりと認知症」をテーマとした定期講演会の開催を予定しています。

健康科学部 看護学科

第110回 保健師国家試験結果

保健師国家試験 合格率推移

回	実施年月	本学	全国(新卒)
第110回	令和6年2月	88.9%	97.7%
第109回	令和5年2月	100.0%	96.8%
第108回	令和4年2月	—	93.0%
第107回	令和3年2月	—	97.4%
第106回	令和2年2月	—	96.8%

本 学看護学科の第110回保健師国家試験は、9名が受験し合格者は8名でした。今年は100%合格を目指し、12名の学生が頑張っています。10月までは公衆衛生看護実習が計画されていますが、実習中に覚えるべき事項等の知識面を強化し、また、実習での場面と知識の関連性などを深めながら、学内での学びの統合を目指し日々頑張っています。看護学科では今年度も、より手厚くきめ細やかに受験対策を行ってまいります。(中神克之教授)

健康科学部 看護学科

第113回 看護師国家試験結果

看護師国家試験 合格率推移

回	実施年月	本学	全国(新卒)
第113回	令和6年2月	97.3%	93.2%
第112回	令和5年2月	95.4%	95.5%
第111回	令和4年2月	—	96.5%
第110回	令和3年2月	—	95.4%
第109回	令和2年2月	—	94.7%

本 学看護学科の第113回看護師国家試験の合格者(合格率)は、新卒生73名(97.3%)と既卒生3名(100%)でした(表は合格率の推移です)。本学の昨年度の合格率は、看護師養成課程(新卒)の平均合格率を4.1ポイント上回りました。今年度は、これまでの国家試験対策をブラッシュアップし、国家試験情報の説明や個別面談、弱点克服補講等を行い、より手厚くきめ細やかに対策を行ってまいります。(中神克之教授)

健康科学部 健康栄養学科

第38回 管理栄養士国家試験結果

管理栄養士国家試験の合格率推移

回	実施年月	本学	全国(新卒)
第38回	令和 6年3月	84.9%	80.4%
第37回	令和 5年2月	95.2%	87.2%
第36回	令和 4年2月	97.8%	92.9%
第35回	令和 3年2月	92.6%	91.3%
第34回	令和 2年3月	99.3%	92.4%
第33回	平成31年3月	100.0%	95.5%
第32回	平成30年3月	99.3%	95.8%
第31回	平成29年3月	97.2%	92.4%

第 38回国家試験は93名が受験し、合格者は79名、合格率84.9%でした。全国の新卒者合格率は80.4%で、2年連続して大きく低下しており、管理栄養士国家試験の難易度が年々上がっていることが示されました。食生活から健康を支える管理栄養士に求められる知識や技能が、より高度になっていることがうかがえます。高まる社会の要望に対応しうる管理栄養士の育成に一層努力してまいります。(山中なつみ教授)

医療科学部 理学療法学科・作業療法学科

入学後早期の東海記念病院見学



緊張した面持ちで教員からの説明を聞く学生達

理 学療法学科と作業療法学科1年生が5月18日に、医療法人社団喜峰会東海記念病院にて早期施設見学を行いました。学生達は真新しい実習着に身を包み、緊張した面持ちで、理学療法士・作業療法士の働く姿を見学した後、リハビリテーション機器等の説明を受け、体験も行いました。貴重な臨床場面を入学間もない時期に見学することができ、これからの大学での学びに対して決意を新たにすることができました。(山下英美講師)

医療科学部 理学療法学科・作業療法学科

「普通救命講習1」を医療科学部学生が受講



胸骨を深く強く圧迫! 心肺蘇生法の練習中



素早い異物除去! 腹部突き上げ法の練習中

8 月5日から7日にかけて、理学療法学科・作業療法学科計126名を対象に、名古屋市応急手当研修センター主催の「普通救命講習1」を開催しました。昭和消防署から3名の講師をお招きし、各2時間半の講習を行いました。学生は、心肺停止などの緊急事態が発生した場合、迅速な通報、心肺蘇生法(CPR)、AEDの使用といった救命処置が生死を分けることを学びました。また、一人ひとりが人形を用い、実際の緊急事態を想定した演習を通して、CPR、AEDの使用、異物除去、止血法といった実践的な救命スキルを習得しました。最初は戸惑っていた学生も、何度も練習することで自信を持って心肺蘇生やAED操作を行えるようになりました。今回の講習を通じて、いざという時に冷静に対応できるよう、救命の知識と技術を習得することができました。(額額真之介助手)

健康科学部 看護学科

デンマーク海外研修



オーデンセ大学病院での研修の様子

看 護学科1年生10名が社会福祉国家であるデンマークへ医療福祉研修に参加しました。FOLKEHØJSKOLEという全寮制の教育機関を拠点に、看護大学や大学病院、在宅ケアの場、認知症住居施設、地域看護クリニック、幼稚園などで研修を行いました。学生は、デンマークの人々の生活を知ることで、「どこで、どのようなケアを受けることが、真の自立なのか?」また「尊厳あるケアとは何か?」について考える機会になりました。(松田優子准教授)

健康科学部 看護学科

採血の学内演習



採血用のモデルを使用して練習

看 護学科2年生が採血の学内演習を行いました。血液検査の場面に必要な採血の実施や、患者さんへの援助は看護師の役割です。講義で基本的な知識や技術を学んだ後、9名程度のグループに分かれて演習を実践します。検査が安全に実施できるよう、採血用のモデルを使用して繰り返し練習をします。教員が小グループを担当してきめ細やかな指導を行い、技術が習得できるように支援しています。(伊神美早講師)

健康科学部 健康栄養学科

管理栄養士になる!
モチベーションアップセミナー

座談会にて在学生からの質問に答える卒業生の皆さん

健 康栄養学科1年生を対象に、卒業生の戸田和希氏(トヨタ生活協同組合)、櫛田結友氏(愛知医科大学病院)、倉田京香氏(いおうじ応急クリニック)を招いてセミナーを開催しました。大学での学びが管理栄養士業務にどのように繋がるのか、また、在学中に困難にぶつかった時には、友人と支え合うことで乗り越えられるというアドバイスをいただき、在学生にとって大学生活を見つめ直す契機となりました。(辻美智子講師)

児童教育学部 児童教育学科

入学式で学園歌「月光の」を披露



5年ぶりに学生の歌声が響きました

4月4日に本学の入学式が行われ、児童教育学部 児童教育学専攻4年生30名の有志が学園歌「月光の」を新入生に披露しました。コロナ禍を経て5年ぶりの学園歌演奏の機会となり、入念な練習を積み本番に臨みました。学園歌「月光の」は、学園で学ぶ学生の心をつなげるものでもあり、学生達も学園歌を受け継ぐ誇らしい気持ちをあらたにする貴重な機会となりました。

(坪井真里子教授)

児童教育学部 児童教育学科

オーストラリア海外スクールインターンシップ



Japan Dayで釣りを楽しむ園児達



Harmony DayのパレードではNWUとして紹介されました

児童教育学部の目玉プログラムの一つである「オーストラリア海外スクールインターンシップ」は、新型コロナの影響で3年間の中断を余儀なくされましたが、今年の春は無事に実施することができました。児童教育学部の1年から4年の学生21名が、2月中旬から3月初旬までホームステイをしながらメルボルン近郊の小学校と幼稚園で2週間のインターンシップに参加しました。学生達は主に現地の小学校や幼稚園に通う子どもの家にホームステイし、英語に囲まれた環境でホストファミリーとコミュニケーションをしながら現地の初等教育や幼児教育を目の当たりにして、グローバルな知見を得ます。実習の最後では日本の文化や活動の紹介を英語で行う「Japan Day」(幼稚園)あるいは「Harmony Day」(小学校)のイベントで堂々と発表を行うことができました。

(稲木真司准教授)

家政学部 生活環境学科

松村哲志講師 2024年日本建築学会教育賞(教育貢献)受賞



常滑での住民と協働したまちづくり活動風景

建築教育の発展に貢献した業績に授与される「2024年日本建築学会教育賞(教育貢献)」を生活環境学科の松村哲志講師が受賞しました。JCAABEまちづくりファシリテーター養成講座実施委員会「建築系まちづくりファシリテーター養成講座」を開発・実践し、オンデマンド、オンライン、ハイブリッドなどの先端技術により「時間・距離・人」を超えたつながりを実現したことを評価されての受賞となりました。

(小町谷寿子教授)

家政学部 生活環境学科

第9回食物アレルギー対応食料理コンテスト審査委員特別賞



受賞作品 岐阜県産栗のモンブラン愛す

二ッポンハム食の未来財団主催「第9回食物アレルギー対応食料理コンテスト」で、生活環境学科4年調理学ゼミの柘植わかなさんが考案した「岐阜県産栗のモンブラン愛す」が審査委員特別賞を受賞しました。地元の名産である栗を使ったお米のアイスクリームです。審査員からは「冷凍ごはんから作られたアイスクリームとは思えない、まるでラム酒香る高級スイーツです。」とのコメントをいただきました。

(間宮貴代子准教授)

児童教育学部 児童教育学科

名古屋土曜学習プログラム



南区宝小学校(昨年度)での学生と小学生

児童教育学部では名古屋土曜学習プログラムの大学連携型学習提供として、毎年、名古屋市内の小学校で土曜授業を行っています。令和6年度も4つの小学校で教員の専門性を生かした楽しい授業を提供します。また、教員を目指す多くの学生は、「いきいきサポーター」として1年生から参加し、授業補助を通して小学生と関わる経験を楽しんで教える喜びや支援の大切さを楽しんでいきます。

(吉川直志准教授)

短期大学部 生活学科

生活協同組合コープあいちの
ミールキット開発

サンプル品を調理した学生

生活学科では、コープあいちの宅配ミールキット開発に取り組んでいます。製造担当の東海コープからミールキットの現状や課題を伺い、テーマは「魚」となりました。学生がキットに使用できる食材を考慮して試作・提案したところ、「白身魚のフリッター・ゆずレモンソースかけ」の商品化が決まりました。11月の商品カタログデビューに向け、サンプル品の調理等、調整を行っています。

(阪野朋子准教授)

短期大学部 生活学科

「カセラサラフェスタ コンテスト」に入選



作品制作部門入選 市川愛佳さんの作品



作品のデザイン画

「カセラサラフェスタ コンテスト」はファッションを学ぶ学生の物作りへの挑戦や夢を実現するきっかけとなることを目的として、2015年にスタートしたファッションデザインコンテストです。

生活学科の授業でファッションデザインを学んだ1年生の学生達が、このコンテストのデザイン画審査(一次審査)に応募して、作品制作部門(一般の部)に市川愛佳さんが入選しました。デザイン画の作品を制作して、着装写真やデザインコンセプトに関する資料を提出する二次審査を通過し、3月17日に行われた最終審査会の作品展示とプレゼンテーションに参加しました。これまでの学びを生かして完成させた作品を、公開審査会で披露した経験は、今後の創作活動に生かされると思います。

(小田久美子准教授)

学生支援センター

病院等職種説明会



説明会に参加する医療科学部第一期生

医療科学部の第一期生である3年生を主対象に、今後の就職活動に向けた初の「病院等職種説明会」を開催しました。医療法人や大学病院のご協力のもと、8月8日と9日の2日間実施し、希望する2年生を含む42名の学生が参加しました。学生達は、担当者から組織の理念、チーム医療の特徴、勤務体系等について説明を受け、活発な質疑応答を通して自身の将来への意識を高めることができました。

短期大学部 保育学科

東保見こども園
「多文化共生」講演会

左から東保見こども園園長先生、主任先生、学生達

生活文化の違いの中で地域に根差した子育て支援」と題して、9割以上の園児が外国にルーツを持つ、東保見こども園の園長先生、主任先生からお話いただきました。この講演会は、保育者養成講座で2年間にわたり行ってきた、多文化共生プログラムの取り組みです。第一部2年生、第三部3年生が受講し、2回ある講演会の間に、学生達は多文化について調査、ディスカッションを行い、理解を深めました。(松田ほなみ准教授)

短期大学部 保育学科

折り紙で作った七夕飾り



学生達による七夕飾り風景

今年も、例年のように、「保育内容演習(環境)」(保育学科第一部1年)では、授業で作った折紙の七夕飾りを、中央館入口に設置した笹に飾り付けました。その後、他学部他学科の学生達も、それぞれの願いを記した短冊を吊るし、賑やかになりました。「理想の保育者になれますように」という学生の切なる願いから、「世界が平和になりますように」など人間愛あふれる思いも受け取れました。(遠山佳治教授)

越原記念館

企画展「学生作品選抜展2024」



学生作品展示風景

「学生作品選抜展2024」が3月9日から8月11日まで越原記念館で開催され、令和5年度授業やゼミで取り組んだ成果として、建築、工芸、インテリア・服飾デザイン、美術・情報教育教材など多彩な分野から制作した学生作品を一堂に展示しました。また展示に合わせた体験イベントとして、3月9日、生活環境学科横山早美准教授の協力により、パーソナルカラーの体験に多くの方が参加されました。

越原記念館

中部デザイン協会「WEB 卒業制作奨励選抜展」5作品受賞

「目と耳で感じる転がる木製玩具
—海を転がる二重らせんタワー—」
文学部児童教育学科
幼児保育学専攻4年
鈴木友唯



「野生のカラフル動物園」
文学部児童教育学科幼児保育学専攻4年 清水香那



「継承と創成
—やきものまのち常滑における 地域資源をつなぐ提案—」
家政学部生活環境学科4年 梅本美波



「コミュニティ」
短期大学部生活学科2年
小笠原さくら



「生への執着」
短期大学部生活学科2年
古橋咲季麗

中部エリアの芸術関連大学等から卒業制作として選抜された中部デザイン協会「WEB 卒業制作奨励選抜展」に、「学生作品選抜展2024」出展作品から令和5年度制作の本学5作品が選抜され奨励賞を受賞しました。これら作品は卒業後も同協会のWEBサイトに1年間にわたり公開され、学生の制作モチベーションとなっています。

オープンカレッジ

「姿勢改善とピラティス講座」実施



姿勢改善のための様々なエクササイズを実践しました

昨年度に続き2回目の開催となるピラティス講座は、「姿勢改善」に焦点を当て、6月から7月にかけて、全3回実施されました。正しい姿勢とは、体を横からみたときに背中から腰までゆるやかなS字カーブを描いている状態で、ピラティスエクササイズによって理想の姿勢へ導くことができます。講座の最初に姿勢をチェックし、様々なエクササイズを行ってから最後に再び姿勢をチェック。姿勢の変化を実感した学生達から、笑顔がこぼれました。

入試広報課

「育成型選抜」公開講座の開催



真剣に教員の話を受講者の様子

新入試「育成型選抜」の出願につながる公開講座（基礎）を7月13日、14日に開催しました。高校生全学年を対象とし、健康栄養学科・医療科学部・生活環境学科（衣、食、住、ビジネス・情報）・児童教育学科の7講座に延べ204名が参加、各分野への学びを深めました。レポート作成指導も行われ、参加者から「新しい学びがあり、ためになった」との感想があり、「育成」の名のとおり高校生が成長する機会となりました。

学術情報センター

「絵本おはなし会」研修会



和紙を絵具で染めて作った手袋人形

「絵本おはなし会」では毎月の読み聞かせ会のほか、技術向上のための研修会を行っています。研修では絵本の読み聞かせの基礎講習と実習に加え、保育現場で役立つ手遊びやパープサートなどの実技演習も取り入れ、幅広い技能を身に付ける機会としています。今年度は和紙を絵具で染めて作る手袋人形作りに取り組みました。自作の人形は今後のおはなし会や実習にも活用できる教材となり、参加学生にも有意義な研修となりました。

活動紹介

健康科学部健康栄養学科／家政学部生活環境学科／学術情報センター大学図書館

瑞陵高等学校食物科との高大連携協定締結

愛知県立瑞陵高等学校と本学との間で締結した「高大連携に関する協定書」に基づく取り組みについて紹介します。

し、情報交換、研究交流を行う予定です。

今後の取り組み

今年度は、主に食物科生徒を対象とする活動が実施されました。この高大連携活動での体験が、進路選択や資格取得に活かされることが期待されます。今後は本学学生が食物科生徒と交流する活動も計画していきたいと考えます。高大連携による地域貢献活動など、新しい企画の広がりも考えられます。双方の学校教育の振興、人材育成に寄与できるように取り組んでまいります。

高大連携協定の締結

令和6年4月2日、愛知県立瑞陵高等学校と本学は、「高大連携に関する協定書」を締結しました。この連携協定は、教育・研究及び文化等の分野で相互に協力し、学校教育の振興ならびに地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的とするものです。この目的の達成に向けて、瑞陵高等学校食物科と本学健康科学部健康栄養学科ならびに家政学部生活環境学科、さらに学術情報センター大学図書館が連携し、情報交換、研究交流、教員の相互派遣や生徒・学生の交流等の諸活動を行うこととなりました。

令和6年度の高大連携活動

今年度の活動としては、5月に食物科3年生を対象とした図書館講習と研究室訪問、6月には食物科1年生向けの図書館オリエンテーションを実施しました。協定により大学図書館は食物科の生徒ならびに教員の皆さんに開放されることとなり、オリエンテーションでは図書館の

利用方法の説明や館内案内が行われました。さらに、図書館講習では図書館職員が講師となり、情報収集のための検索ツールの利用方法や情報リテラシーについて講義を行いました。食物科生徒による図書館の利用は7月までにのべ250名を超えており、3年生が取り組んでいる「課題研究」における情報収集や自主学習の場として、大学図書館が大いに活用されています。

研究室訪問では、3年生が各々興味のある分野を選択して8つの研究室に分かれ、食と健康あるいは生活環境を専門とする本学教員の講義や研究紹介を聴講しました。30分間という短い時間でしたが、大学での教育・研究に触れる機会となりました。9月には2回目の研究室訪問を予定しており、実験・実習あるいは演習形式で90分間の授業を体験します。

また、12月には2年生を対象として、管理栄養士講座と学食体験が計画されています。実務経験のある本学教員が、病態食の献立作成の要点や大量調理上の工夫について講義を行います。さらに、瑞陵高校における課題研究発表会、本学における卒業研究発表会に相互に参加



研究室訪問で教員の話に熱心に聞く生徒たち



高大連携協定締結



図書館講習の様子

名古屋女子大学高等学校・
健康医療系学部連携コース

健康医療系学部 連携授業

大学で実施している「高等学校健康医療系学部連携コース」
(3年生)の連携授業について紹介します。

活動紹介

学びの楽しさを知る 体験型授業



ココアからカビ毒を抽出・精製しているところです

本学では、管理栄養士や看護師、理学療法士、作業療法士など医療系職種の専門性や本学の特色、学びの楽しさなどを知ってもらうことを目的に名古屋女子大学高等学校第3学年の「健康医療系学部連携コース」の生徒を対象に、「健康医療系学部連携授業」を実施しています。本連携授業では、生徒の志望職種に関わらず

健康科学部健康栄養学科・看護学科や医療科学部理学療法学科・作業療法学科計4学科の授業(90分)を3コマずつ計12コマの授業を行っています。各学科では健康医療系学部での学びに興味・関心を高め、進学意欲・学習意欲が高まるように、毎回の授業で演習や実験などを取り入れた体験型授業を展開しています。

6月7日に食品の安全性について考える授業を実施しました。食品には人に必要な栄養素だけでなく、人の健康に悪影響を与える物質(ハザード)が混入・付着している場合があります。そのため、日本を含めた世界各国で、各種ハザード摂取による安全性評価(リスク評価)が行われています。本授業では、現在世界的に問題となっているカビ毒(カビが産生する物質で人や動物の健康に悪影響を与える化合物)をココアから抽出・精製し、その含有量を測定する分析を体験してもらいました。生徒の皆さんは、食品にカビ毒が含まれていることに驚いていましたが、今回の授業を通じ、食品の安全性を考える良い機会になったと思います。

医療科学部作業療法学科／
家政学部生活環境学科

ゲストスピーカーによる 連携授業

医療科学部と家政学部の学部・学科を横断した教育プログラムについて紹介します。

活動紹介

「衣食住」の多角的学び

医療科学部作業療法学科の目指す「医療的立場からの患者の生活再建」と、家政学部生活環境学科の「衣食住の専門性」は、異なる学問領域ですが、隣接した専門性があります。異なる学科が連携し学びあう機会を得ることは、多様な視点の獲得、社会的ニーズに応える人材の育成に寄与できると考え、学科横断的教育の一環として連携授業をおこ



生活環境学科の授業「住生活論」でのグループワーク

なっています。

作業療法では、医学的側面から生活を観る視点が重要です。こうした視点は、「衣食住」の専門家を目指す生活環境学科の学生にも重要であると考え、本年度、生活環境学科「衣生活論」「食生活論」「住生活論」の授業に作業療法学科の教員がゲストスピーカーとして参加しました。「住生活論」では、高齢者の動作や住宅構造についての動画を視聴し、学生はグループワークで転倒の危険箇所等について様々な視点から検討し、発表しました。こうした授業によって、専門的知識を覚えるだけでなく、体験を通してより深い理解に繋がりました。

授業後のアンケートでは、「授業に満足」が98・4%、「今後も連携授業があると良い」が97・0%と高い評価を得、また「これまで座学で学んだことが実感として理解できた」などの肯定的コメントが寄せられました。今後も学科横断的教育プログラムを活発化させ、新しい価値を創造できるような学生の育成に繋がっていきたいと考えています。

就職

学科別進路状況

名古屋女子大学

就職率 **99.3%**
(就職者数÷就職希望者数)

(令和6年5月1日現在)(名)

学科・専攻	進路決定者	就職		就職者以外		
		希望者	就職者	進学	専門学校留学	その他
健康栄養学科*1	105	107	105	0	0	2
看護学科	73	73	73	0	0	2
小計	178	180	178	0	0	4
生活環境学科	83	81	80	2	1	3
小計	83	81	80	2	1	3
児童教育学科児童教育学専攻	67	67	67	0	0	3
児童教育学科幼児保育学専攻	90	90	90	0	0	1
小計	157	157	157	0	0	4
合計	418	418	415	2	1	11

*1 家政学部食物栄養学科を含む

名古屋女子大学短期大学部

就職率 **100%**
(就職者数÷就職希望者数)

(令和6年5月1日現在)(名)

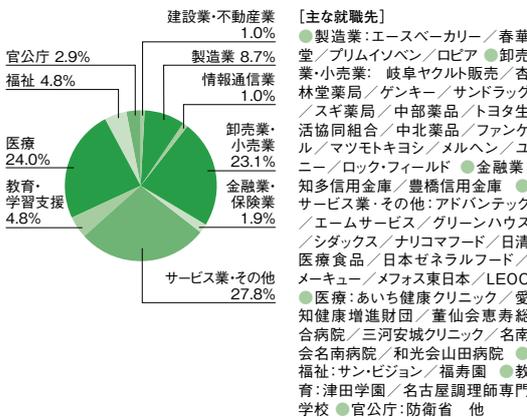
学科	進路決定者	就職		就職者以外			
		希望者	就職者	進学	専門学校留学	その他	
生活学科	37	34	34	2	1	11	
保育学科	第一部	28	28	28	0	0	5
	第三部	35	35	35	0	0	2
	小計	63	63	63	0	0	7
合計	100	97	97	2	1	18	

[名古屋女子大学] 業種別就職状況・主な就職先

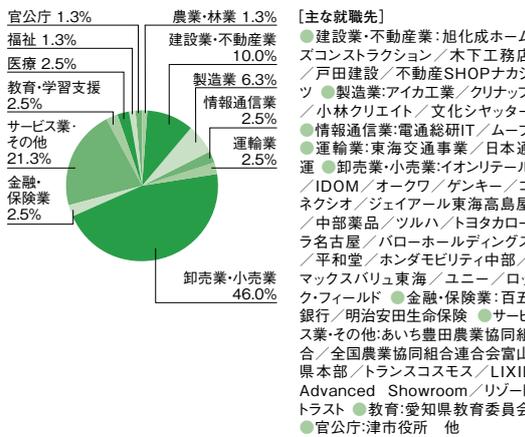
学科・専攻別

(令和6年3月卒業生実績)

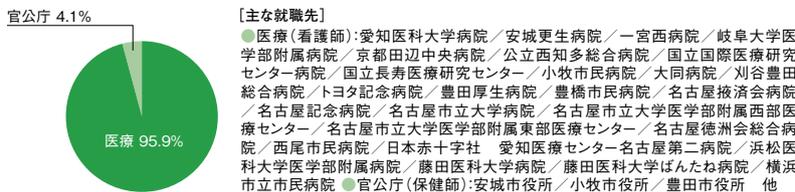
健康栄養学科



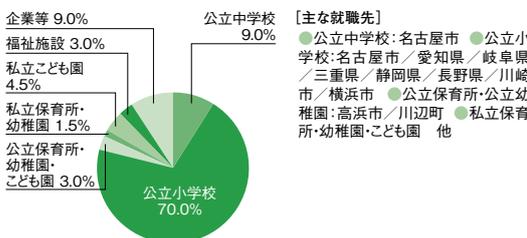
生活環境学科



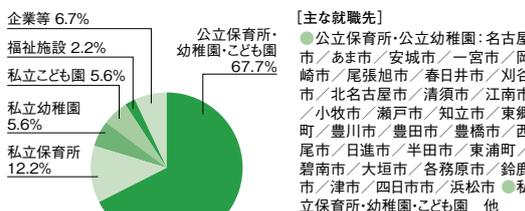
看護学科



児童教育学科 児童教育学専攻



児童教育学科 幼児保育学専攻



令和5年度の就職活動では、業界を問わず早期化の傾向が一層強まりました。学生は早い段階から対策を講じ、希望する進路に進む結果を出しました。

令和5年度卒業生の進路状況・主な就職先

令和5年度 主な資格取得実績

◎…国家資格およびそれに準ずる免許等

名古屋女子大学

資格名	取得者数(名)	資格名	取得者数(名)
◎管理栄養士	79	◎宅地建物取引士	1
◎栄養士	108	食品衛生管理者任用資格	108
◎栄養教諭一種免許状	14	食品衛生監視員任用資格	108
◎看護師	76	フードスペシャリスト	40
◎保健師	8	フードコーディネーター2級	7
◎高等学校教諭一種免許状(家庭)	14	フードコーディネーター3級	44
◎中学校教諭一種免許状(家庭)	12	インテリアプランナー実務経験免除	22
◎中学校教諭一種免許状(国語)	33	2級衣料管理士(テキスタイルアドバイザー)	18
◎小学校教諭一種免許状	63	カラーコーディネーター アドバンスクラス	1
◎幼稚園教諭一種免許状	121	カラーコーディネーター スタンダードクラス	6
◎保育士	91	色彩検定2級	19
◎一級建築士受験資格	22	上級情報処理士	37
◎二級建築士受験資格	22	情報処理士	26
◎木造建築士受験資格	22	日商簿記検定2級	1
◎2級ファイナンシャル・プランニング技能士	5	日商簿記検定3級	5
◎3級ファイナンシャル・プランニング技能士	14		

名古屋女子大学短期大学部

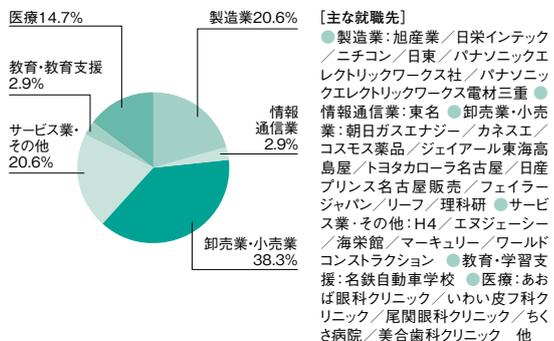
資格名	取得者数(名)	資格名	取得者数(名)
◎保育士	62	文書デザイン検定1級	31
◎幼稚園教諭二種免許状	65	ホームページ作成検定2級	28
◎ITパスポート試験	6	日本語ワープロ検定1級	1
フードコーディネーター3級	11	日本語ワープロ検定準1級	11
ドレメ式洋裁教員認定	3	日本語ワープロ検定2級	20
フォーマルススペシャリスト検定準2級	11	日本語ワープロ検定準2級	7
医療事務技能審査試験(メディカルクラーク)	4	情報処理技能検定(表計算)1級	15
秘書士	33	情報処理技能検定(表計算)準1級	1
秘書技能検定準1級	1	情報処理技能検定(表計算)2級	48
秘書技能検定2級	6	情報処理技能検定(表計算)準2級	5
秘書技能検定3級	32	情報処理技能検定(表計算)3級	39
上級情報処理士	26	サービス接遇検定準1級	13
情報処理士	2	サービス接遇検定準1級 ロールプレイング合格	25
上級ビジネス実務士	28	サービス接遇検定2級	22
ビジネス実務士	4	サービス接遇検定3級	1
プレゼンテーション作成検定1級	13		

[名古屋女子大学短期大学部] 業種別就職状況・主な就職先

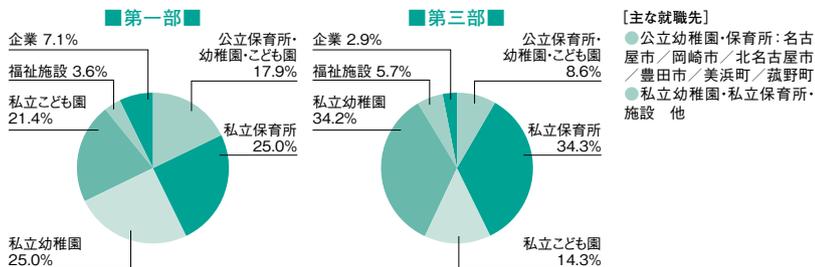
学科別

(令和6年3月卒業生実績)

生活学科



保育学科



令和5年度の就職活動概況

令和5年度の就職試験は、コロナ禍の終息による対面形式の回帰傾向にありながらも、説明会や一次面接においてオンラインを利用する企業、官公庁はまだ多くありました。さらに、年々加速する選考早期化と選考プロセスの多様化により、学生はあらゆる試験に備えた対策に加え、柔軟な対応力も身につける必要がありました。そのような中で、昨年度の就職率は大学が99.3%、短大が100%と高い実績を残すことができたのは、高い就職意欲に満ちた学生の主体的な活動とひたむきな努力の成果といえます。

令和6年度の就職支援においては、早期選考に適切に対応するためのキャリア形成、充実した支援行事の開催、そして個々に合った指導に尽力し、引き続き力強く支えていきます。



教員採用試験説明会に参加する学生

研究助成

令和6年度研究助成採択

研究活動における成果を積極的に還元できるような、本学では専任教員の研究活動の充実発展に取り組んでいます。令和6年度に採択された科学研究費助成事業および学内の教育・基盤研究助成の研究課題を紹介いたします。

令和6年度 科学研究費助成事業採択実績

学部	学科	職名	研究代表者	研究課題名	研究種目
健康科学部	健康栄養	教授	片山 直美	初老から高齢者における味覚・嗅覚・咀嚼力と食生活との関連を明らかにするための研究	基盤研究(C)
	健康栄養	講師	近藤 志保	最適化保健指導法のアルゴリズム構築	若手研究
	健康栄養	講師	辻 愛	慢性的心因性ストレスによる卵子の老化に対する栄養学的予防/治療法	若手研究
	健康栄養	講師	辻 愛	〇ピロチン不足が卵子ヒストン修飾におよぼす影響とメカニズムの解明	基盤研究(C)
	健康栄養	講師	丸谷 幸子	スポット尿を用いた食塩摂取量とナトリウム・カリウム比評価法の再構築	基盤研究(C)
	看護	教授	久保 金弥	〇母親の咀嚼運動による子供の発達障害抑制機序の解明:エピジェネティックな修飾の解析	基盤研究(C)
	看護	教授	雷澤 栄子	脳卒中再発予防行動継続のための頸動脈の血行動態を含む包括的・視覚的評価指標の開発	基盤研究(C)
	看護	教授	中神 克之	卓越した指導を行うICU看護師の指導技能の解明とシナリオ型動画教育教材の開発研究	基盤研究(C)
	看護	教授	渡邊 実香	周産期医療・看護学的視点を包括した特別養子縁組養親の親役割獲得支援プログラム開発	基盤研究(C)
	看護	講師	河村 諒	広域避難した高齢被災者に対する生活支援モデルの開発	基盤研究(C)
	看護	講師	松田 麗子	日本におけるクリティカルケア看護師のモラルディストレス尺度の開発	基盤研究(C)
	看護	講師	松田 麗子	〇道徳的苦悩に直面したクリティカルケア看護師の回復プロセスの解明	基盤研究(C)
	医療科学部	看護	講師	橋本 侑美	NICUを持たない施設看護職に特化した新生児蘇生法学習プログラムの開発
理学療法		教授	石田 和人	〇高脂肪食投与により生ずる抑うつ様行動の病態ならびに運動および食事療法の効果検証	基盤研究(C)
理学療法		講師	玉木 徹	糖尿病で生じる神経再生障害に対する性別を加味した効果的な運動療法の開発	若手研究
理学療法		講師	内藤 紘一	在宅心臓リハビリテーション確立に向けた客観的な身体活動・座位行動の予測モデル構築	基盤研究(C)
理学療法		講師	内藤 紘一	心不全進行予防のためのウェアラブルデバイスを用いた座位時間適正化プログラムの開発	基盤研究(C)
理学療法		助教	駒形 純也	拡張現実を用いた脳卒中患者の歩行に対する革新的治療プログラムの開発	若手研究
理学療法		助手	額根真之介	〇海馬と大脳皮質の連絡に着目した、運動がうつ病病態に与える影響の解析	若手研究
作業療法		教授	木村 大介	AIによる認知症高齢者のBPSD発現に至る行動パターンの解析に関する研究	挑戦的研究(萌芽)
作業療法		教授	竹田 徳則	コロナ禍における高齢者の生活機能に着目した認知症予防に向けた縦断研究	基盤研究(B)
作業療法		教授	中西 康祐	〇認知症高齢者の生活の質の向上を可能にするケアの確立	基盤研究(C)
作業療法		教授	藤田 高史	ICT機器を活用した共食による居宅高齢者への包括的フレイル介入の試み	基盤研究(C)
作業療法		准教授	山鹿 隆義	高齢がん患者に対する座位行動減少のための生活機能に着目した身体活動プログラム開発	若手研究
作業療法		講師	今井あい子	後期高齢者に対する座位行動から低強度活動への置き換えプログラムの作成と効果検証	若手研究
作業療法	助教	塙 杉子	神経発達症の子どもの前頭前野、小脳連関に着目した学習と、身体能力との関連	研究活動スタート支援	
学部	生活環境	助教	渡部 容子	子育て教育の地域共同システム・横の連携及び縦の一貫性を備えた自治体総合施策の研究	基盤研究(C)
	生活環境	助教	山田 千聡	明治期「主婦」の翻訳とその変容に関する比較研究	基盤研究(C)
児童教育学部	児童教育	教授	堀部 要子	特別な教育的ニーズのある児童への支援を促進するリーダーの役割と行動に関する研究	若手研究
	児童教育	准教授	堀 祥子	地域を陶冶する「つくる・たべる・おしゃべりする」移動屋台型アートコンテンツの開発	基盤研究(C)
	児童教育	講師	門松 愛	子どもと関わる技術の教授法に関する比較研究:アジア途上国に注目して	若手研究
	児童教育	講師	佐々木基裕	「ニュー・アカデミズム」の学際性に関する知識社会学的研究	若手研究
短期大学部	生活	准教授	阪野 朋子	〇ゴマによるビタミンK濃度上昇の作用機序の解明と食生活への応用	基盤研究(C)
	保育	教授	大嶽さと子	コロナ禍における「ママ友」のソーシャルサポートと精神的健康—就業形態からの分析—	基盤研究(C)
	保育	教授	鈴木美枝子	東日本大震災の生活環境崩壊による子どもの発達への影響とその支援	基盤研究(C)
	保育	教授	中垣 明美	妊婦運動中の高精度運動量計測を用いた工学的視点と生理学的視点によるリスク評価	基盤研究(C)

※〇は令和6年度新規採択課題

令和6年度 教育・基盤研究助成費採択実績(新規)

学部	学科	職名	研究代表者	分野	種目	種別	研究課題名
健康科学部	健康栄養	講師	辻 愛	家政	奨励	個人	ビタミン低栄養による卵子の質低下の法則性
	健康栄養	講師	松尾亜希子	家政	基盤	個人	キャロパウダーのアルコール処理がアミノ酸およびピニールに与える影響
	看護	教授	(代)雷澤栄子 倉田亮子 坂 恒彦 伊東春菜	医看	教育	共同	療養の場で生活する高齢者の世代継承性(generativity)に着目した老年看護教育プログラムの構築
	看護	助教	佐藤 綾野	医看	奨励	個人	在日ベトナム人の健康管理に関する実情調査と必要とされる健康情報の検討
	看護	助教	城川絵理子	医看	基盤	個人	地域別訪問看護のニーズと提供体制のあり方に関する検討
	看護	助教	鈴木 雪乃	医看	基盤	個人	明治大正昭和初期の精神病院における看護師の資質に関する研究
家政学部	生活環境	講師	伊藤 睦子	家政	基盤	個人	次世代の郊外住環境の構築に向けた計画住宅地の比較
児童教育学部	児童教育	准教授	ELMETAHER Hosam	人文	教育	個人	Longitudinal Assessment of Receptive Vocabulary Knowledge in Lower-Level L2 English Learners Using the MRVAT
短期大学部	保育	准教授	平澤 節子	人文	基盤	個人	保育者養成課程における児童文化財を用いた音楽教育モデル構築に向けた基礎研究

※掲載は令和6年度新規採択課題のみ。上記の他、令和5年度からの継続課題12件、科研費差額助成12件に助成中 ※分野欄の「家政」は「家政・自然分野」、「医看」は「医療・看護分野」、「人文」は「人文・社会分野」。種目欄の「基盤」は「基盤研究」、「教育」は「教育に資する研究」、「奨励」は「奨励研究」

令和5年度事業報告

学校法人越原学園の令和5年度における事業の概要は、以下のとおりです。

1 事業の概要

令和5年度事業計画に基づいて実施した事業の主な内容

〔法人の部〕

1 管理運営

前年度に引き続き、学園のガバナンス機能の強化を目的として、理事会決定事項を執行機関である法人本部を中心に、設置する各学校において業務改革改善を推進するとともに、監事の業務監査等により、事務処理の適正化に努めました。また、ヘルスケア研究所の設置（令和5年10月1日付）、事務組織機構の改革改善の推進、IR機能の強化などを通じ、学園の基盤強化に取り組みました。

2 広報

大学短大では、国家試験採用試験合格実績にスポットを当てた高校広報を実施するとともに、高校の新カリキュラムを令和7年度の本学独自試験、大学入学共通テスト利用入試の使用科目等に反映させました。また、付属幼稚園では、広報媒体の強化、預かり保育プレスクール課外授業の充実と広報に取り組みました。

3 施設設備

大学・短大では、学生の安全・安心に資する施設設備の維持・拡充、コンピュータ演習室の更新、教育研究等の機器・備品に係る棚卸し管理システムの整備等を行いました。

4 収益事業

太陽光発電、不動産賃貸を主たる事業として、太陽光発電設備の追加設置、賃貸用建物の建設を行いました。

〔大学・短大の部〕

1 教育研究体制の改革推進

教育質保証推進計画の継続実施、公費の適

正使用の厳格化推進、自己点検・自己評価の検討見直し、教員評価の継続実施、教育・基盤研究助成を活用した研究活動推進に取り組みました。

令和6年度からの入学定員減（健康科学部健康栄養学科、短大生活学科・保育学科第一部）に伴う、収容定員変更に関わる学則変更、文学部から「児童教育学部」への学部名称変更を文部科学省に届け出ました。

2 学生支援体制の改革推進

キャリア支援体制の強化・充実、インターンシップ、社会体験活動の支援体制の強化促進、初年次教育の推進充実、学生サポーター体制の強化促進、自己点検・自己評価委員会シラバス検討作業部会によるシラバス記載内容の見直しと点検・充実、高等教育の修学支援新制度における支援体制の強化・促進、校地内外禁煙巡回指導の継続推進、学生寮寮生の生活支援、大学、大学院および短期大学の教育課程の体系化とナンバリング等の検証・見直し、カリキュラムマップ運用の検証とカリキュラムツリーの検証・見直し、教育の質保証の推進、学修成果の可視化ルーブリック評価の検証、学生の学修成果の把握のための学修到達度・学修行動等の調査継続、分析の推進、学生ポートフォリオの全学的導入状況の検証、CAP制の実質化、授業連携図書館利用指導の実施と図書館学習支援の充実、ICT教育の推進と学習支援環境の充実、入学予定学生向け図書館開放と入学前学習の支援、学科図書館連携による語学活動の継続実施、学科図書館連携による語学支援・アクティブラーニング学習支援、他大学、地域連携による学生の主体的活動推進、大学のボランティア活動への参加促進支援、LMSシステムの導入によるe-ポートフォリオの実施に取り組みしました。

3 自己点検・自己評価

短大では、大学・短期大学基準協会による第三者評価（短期大学機関別認証評価）を受審し、同協会が定める評価基準を満たしているとして、「適格」と認定されました。

また、内部質保証の一環として、大学院及び大学・短大各学科において、3つのポリシーの令和5年度の達成状況について自己点検・評価を行い、報告書にまとめました。

4 FD・SD活動の推進

FDとして、学生による授業評価の結果に基づき、各種の授業改善活動を実施し、評価が低い授業担当者の授業改善に、継続的に取り組みました。また、学科毎に授業改善、教育課程や教育内容の検討を行い、教育の質保証につなげました。なお、令和6年度より授業評価アンケートは、LMS授業評価機能を利用したwebアンケートに変更となることから、実施要領の作成等、準備作業を行いました。

SDとして、「内部質保証」出口保証としての「質保証」をテーマに、教職協働のグループ研修を行いました。併せて外部講師によるFD/SD研修「主体的な学びを促す学習支援」を実施しました。また、IT全般の知識・技能の習得を目的にICT講習会（年間4回）、及び新任教職員のITリテラシー教育、初任者向け基礎講習会を実施しました。

5 社会貢献の推進

名古屋瑞穂生涯学習センターとの共催で、健康科学部 医療科学部教員による講演を行いました。また、名古屋市との共催で「なごや健康カレッジ」を4年ぶりに実施しました。オープンカレッジは令和5年度後期より、学生向けの資格取得講座を一般にも開放しました。学生が主体的に取り組み地域連携活動として、大学図書館、瑞穂図書館での「おはなし会」を計20回開催し、絵本読み聞かせを通じた社会貢献の場を創出しました。

6 情報公開

学園ホームページに、令和5年度の教育研究活動等の状況、教員養成課程の状況及び財務状況に係る情報を公開しました。

〔幼稚園の部〕

教育・保育内容の充実及び質の維持・向上、保育環境の整備・充実、大学との教育・研究連携の充実、家庭及び地域との連携に取り組みました。

2 財務の概要

教育活動収入は、学生生徒等納付金、手数料、経常費等補助金などの経常的な教育活動に係る収入で、予算に対し4千8百万円増の39億1千3百万円となりました。主な増加科目・内容は、経常費等補助金及び寄付金収入です。

教育活動支出は、教職員の人事費、教育研究活動及び法人の運営に必要な諸経費で、45億7千4百万円となり、当年度の教育活動収支差額は、予算に対し1億5千8百万円増のマイナス6億6千1百万円となりました。

なお、受取利息・配当金などを加えた教育活動外収支差額は4百万円となり、当年度の経常収支差額は、予算と同額のマイナス6億5千7百万円となりました。

また、中学・高校グラウンドの解体等で資産処分差額3千1百万円を計上したこともあり、当年度収支差額は6億9千4百万円のマイナスとなりました。以上より、翌年度繰越収支差額はマイナス4千3百万円、翌年度繰越支払金は29億3千1百万円となりました。

詳細は、学園ホームページ「事業報告財務状況」ページ
<https://www.koshihara-nogyo-a-w.ac.jp/about/report.htm>
 『事業報告書(令和5年度)』を閲覧ください。

名古屋女子大学高等学校

平静を取り戻した 学園生活

令和6年3月1日、卒業生220名は涙と笑顔で無事に巣立ち、4月6日には新たに208名の新入生を迎え、新年度が始まりました。社会を大混乱に陥れたコロナ禍ですが、未だに感染する生徒や教員はいるものの、学校自体はコロナ禍以前の平静さを取り戻しています。

恒例の越原オリエンテーション合宿も5年ぶりに2泊3日で行われ、新1年生が二組に分かれて4月15日と17日に東白川村に向けて出発しました。続けて5月2日には球技大会が、6月14日には体育祭が開催され、生徒たちは思いっきり爽やかな汗を流しました。

7月26日に1学期終業式を迎えましたが、続けて29日からは夏期講習が、8月5日からは2泊3日で学習合宿が実施されました。また、中断



体育祭「大縄飛び」(於:愛知県武道館)

していた夏休み海外研修プログラムも再開され、アメリカ(カリフォルニア)に10名、オーストラリア(ブリスベン)に5名の生徒が参加するなど、充実した夏休みを過ごしました。

名古屋女子大学中学校

中高一貫生の 充実した学校生活



体育祭 応援合戦

令和6年3月1日、二貫課程高等部9期生56名は、6年間学び慣れ親しんだこの学舎を巣立ちました。また、中等部3年生95名は3月19日に修了式及び立志式を終え、新たな決意を胸に秘め高等部に進級しました。

そしてその後を引き継ぐ新入生74名が4月6日に入学し、令和6年度の新学期が始まりました。4月から学年別保護者会が順次行われ、5月には、球技大会、5年ぶりの2泊3日の越原研修、1学期中間試験が実施されました。6月には日本ガイシホールが改修のため今年度は愛知県武道館で体育祭が実施されました。会場の座席が少なく保護者の参観はできませんでしたが、会場の狭さのおかげで生徒の歓声が響き渡り各ブロックの一体感を強く感じる素晴らしい体育祭となりました。6月末からの期末試験が終わり7月26日には終業式を迎え、そして全学年5日間の夏期講習、1・2年生は2泊3日の学習合宿と充実した夏休みを過ごしました。

名古屋女子大学付属幼稚園

夕涼み会を終えて

今年の夕涼み会は、初めての取り組みとなる食育に関連した「第1部カレー作り」と「第2部盆踊り」として実施しました。「カレー作り」は、グループごとに、どのようなカレーを作るかの話し合いからスタートです。食材と隠し味の調味料は、マルシェと称したコーナーから、子ども達がアイデアを出し合い選びました。お母さん先生、お父さん先生にお手伝いいただき、慎重に包丁を持つ子ども達にとって、自分で切る経験は特別なものになったようです。グループごとの工夫が詰まったカレーは、「世界一おいしいカレー(子どもの声)」となりました。第2部は、教師の和太鼓演奏で始まり、有志のお母さんによる「ゆび忍者」の踊りでは、皆がかわいい忍者に変身して動きを楽しみ、また、盆踊りでは、子どもと保護者が一緒に



たのしい盆踊り



カレーの材料を選んだよ

になつてにぎやかに踊る様子が見られました。今回の夕涼み会では、子ども達が、自ら考え取り組んだ貴重な経験がたくさんありました。保護者・子ども達の笑顔があふれた夏の一日となりました。

学園の回想

第39回



松田ほなみさん
(本学短期大学部准教授)

短大30回(昭和56年3月卒)
服飾科(デザイン)

学生生活の思い出

私は、昭和54年に短期大学部服飾科デザイン専攻に入学しました。この

専攻を選んだのは、美術教員の資格が取れたからです。服飾科でしたが裁縫の授業は、一切ありませんでした。高校の時に美術部でデッサンを描いていたのが楽しくて、絵が学べると思い入学しました。毎日絵が描ける授業はとても楽しくて、寮生活だったのですが、寮に帰ってから課題の絵を描いていました。

毎年、生活芸術展という展覧会がありました。博物館を借り切つて、全員が作品を発表しました。私は、2年の時に絵画を選択しましたが、担当の横地洋司先生から、「油彩画、作品のサイズは、全員100号」と言われ、20号や、30号を数枚しか描いたことがなかったため、未知のサイズにみんな嘩然としました。ちなみに1号は、ハガキと同じサイズです。

その当時、さみどり会館という宿泊施設があり、展覧会の前に泊まり込み、合宿のようになっていました。私は、部の箏曲部に入っており、演奏会があるので時間がないと先生に訴えたと、とに

かく描きなさいと言われた覚えがあります。

何を描くか自由だったので、スケッチブックの下描きに合格も頂かないまま、キャンバスに人物を描きました。友人達からは、上手だとお褒めの言葉を頂き、完成したと思いましたが、横地先生からは、「看板のような絵だ」「まだまだ」「実際の人物を見て描け」と言われ、モデルになつてくれる人を探しました。幸い和春寮で見つかりました。

和春寮ですが、私が入っていた時は、2人部屋で食事当番があつて門限が9時でした。寮監さんもいらつしやいました。同室になった人は初対面で、同学年で学科が違う人でした。遠く離れてしまいましたが、今でも心の友です。進級とともに部屋替えがあり、和春寮での心の友は2人います。

部活も初心者ばかりなのに、演奏会があり、合宿があり、朝から夜中まで正座して練習するという試練をとものに耐え抜いた友人達も心の友です。

その当時、専攻科があつたので進みました。専攻科の生活芸術展では、100

号を2枚と20号くらいの自画像を出品しました。こちらも、どう描こうか悩んで制作しているところ、横地先生が、参考にと1枚の絵葉書をくださいました。その絵葉書の作者は、大沼映夫という画家で国画会の会員でした。それがきっかけで私は、国展に出品しています。

横地先生の発案で、ゼミ生と卒業生と一緒に展覧会を行う、ヨコの会を立ち上げました。第一回が1997年です。コロナで開催できない年もありますが、毎年1回行っています。昨年は、岡崎市美術館で横地先生の遺作展と同時に開催になりました。

ヨコの会の会員も、長い年月一緒に展覧会を行い、心の友です。短大の時の同級生も…。大勢の心の友に出会うことが出来たのは、この学校に入学することが出来たからだと思えます。

専攻科を修了する頃、専攻科長の池田初子先生より、学校に残らないかというお話を頂き、研究員になりました。

今では、保育学科で保育者を目指す学生に造形の授業を行い、全学共通科目の美術を担当しています。



第97回国展「LIFE2023」F130号

古文書・古書への招待

vol.45

短期大学部教授 遠山佳治

江戸時代を通じて苗木藩領美濃国越原村(現在の岐阜県東白川村越原)の庄屋を世襲で務めていた越原家では、庄屋の業務に関わる多くの古文書が散逸されずに、現在まで残っており、大変貴重な史料群です。

今回紹介する「宗門御改帳」「宗門人数之帳」等は、一般に宗門人別改帳と呼ばれ、江戸時代中期に、宗門改帳と人別帳が統合された民衆調査のための台帳であり、現在でいう戸籍謄本や租税台帳にあたります。宗門改帳の始まりは寛文期(一六六一〜七三三)に、江戸幕府がキリスト教禁制を徹底させるため、民衆の檀那寺を明らかにしたものでした。後に労働人口把握の人別帳の要素が加わりました。

越原村で一番古い宗門人別改帳は元禄九年(一六九六)のもので、文久二年(一八六二)までの七三分が保存されています。また、隣の有本村の庄屋を兼務していたため、有本村分として六六年分の宗門人別改帳も残っています。宗門改めは毎年二月、藩の宗門奉行が部下を連れ巡村し、村にとっては重要な行事でした。村からは檀那寺奥書のある宗門御請書を藩へ提出しました。その基礎史料が宗門人別改帳でした。

宗門人別改帳は、歴史人口学の資料として活用されています。越原村の元禄九年では四九家族、人口二八五人でしたが、享保一五年(一七三〇)には七八家族、五二八人へと増加しています。全国的な飢饉時期である天明期(一七八一〜八九)・天保期(一八三〇〜四四)には人口増加が停滞するものの、文久二年には二六六家族、一〇三二人となります。このように村の人口推移がこの古文書によって再現できます。



宗門人数之帳
元禄九年(越原村)

本史料は今年度の越原記念館企画展「近世の村すがたを映す越原家庄屋文書」で展示しています。

EVENT INFORMATION

越原記念館 企画展

近世の村すがたを映す越原家庄屋文書

令和6年9月20日(金)～令和7年2月13日(木) 越原記念館 第3展覧室

美濃国越原村は飛騨川の支流白川の上流筋の山村です。現在は岐阜県加茂郡東白川村越原の地名です。江戸時代、苗木藩の領地であった越原村は、農業・林業を主体に、米以外にも大豆・えごま・茶などを栽培し、紙・糸・炭が生産されていました。江戸時代260年世襲で越原村の庄屋を務めた、越原学園創立者 越原春子の生家越原家に残された膨大な庄屋文書の一部をご覧ください。

令和7年(2025)は、学園創立110年を迎えます。この節目の年4月より、名古屋女子大学は大学名を「名古屋葵大学」へ変更し、共学となります。本展では越原春子の生誕地越原を、令和7年の秋季企画展では、常設展に加え、学園の歴史資料をさらに充実させて紹介します。

越原記念館(名古屋女子大学内) 開館時間/10:00～17:00 休館日/土・日・祝日・学園休業日



企画展示ポスター

越原記念館 関連行事

参加無料 先着20人

越原記念館 ギャラリートーク

令和6年10月5日(土) 13:30～14:30
集合時間/13:20(予約不要)
集合場所/越原記念館1階ロビー

今回「企画展」では江戸時代260年、越原村の庄屋役を世襲で務めた越原家の文書から村のなりわい、村人の結婚、家族の姿など見どころを、「常設展」では江戸時代から越原家に伝わる機械機で織りの実演など資料解説とともに、記念館の魅力をたっぷりご案内します。

※当日の本講座の実施有無につきましては、当館HP・代表電話等でご確認ください。

卒業式のご案内

[大学・短大合同] 令和6年度卒業式
令和7年3月18日(火) 10:00～11:00

会場

学校法人越原学園 体育館
名古屋市瑞穂区萩山町1-54-1
地下鉄桜通線「瑞穂区役所」下車(徒歩15分)

※開催場所・方法は変更される場合があります。
最新の情報は本学HPでご確認ください。

BOOK INTRODUCTION

本学教員の著書の案内

まちづくりによる介護予防 「武豊プロジェクト」の戦略から効果評価まで

竹田徳則 共著



本書は、愛知県武豊町での「通いの場」を活用したまちづくりによる、18年にわたる介護予防の経過と要介護認定率の抑制効果について紹介しています。

(ミネルヴァ書房)

クラッシュ・ザ・バリエード 個を超えて、分断を越えて

服部幹雄 分担執筆



本書は、文学・言語学・英語教育学分野の学術専門書です。担当箇所では「言語」に焦点を当て、個別言語を越えたことばの普遍性的一端を明らかにしました。

(金星堂)

周術期看護のための アセスメント事例集(DVD)

粕谷恵美子 監修



本教材は、低侵襲治療の腹腔鏡手術と内視鏡下手術を取り上げ、学生が手術前・中・後の周術期にある患者の看護を視覚的に学習できるように作成しています。

(医学映像教育センター)